授業概要

現在まで多く伝えられる日本美術のひとつに、仏像がある。本授業では平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏師と仏像の歴史を概観する。代表的な仏師の仕事とその仏像を概観するほか、火災で焼失した寺院や仏像を復興する「復興造営」について取り上げる。現在残る仏像の鑑賞方法や特徴だけではなく、史料から知られる仏師の工房や仕事、仏像制作に関わる人々、儀式などについて解説し、現在失われてしまった寺院、仏像を含めた当時の仏師や仏像制作の様子を総合的に講義する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	仏師の歴史
第3回	仏像制作の過程(1) 願主
第4回	仏像制作の過程(2) 儀式
第5回	平安時代後期の仏師(1) 康尚と定朝
第6回	平安時代後期の仏師(2) 院派仏師と円派仏師
第7回	鎌倉時代彫刻史の概要と運慶・快慶
第8回	復興造営(1) 興福寺1
第9回	復興造営(2) 興福寺2
第10回	復興造営(3) 東大寺
第11回	鎌倉幕府関係の造仏
第12回	鎌倉時代の仏師(1) 湛慶1
第13回	鎌倉時代の仏師(2) 湛慶2、そのほかの運慶の息子
第14回	鎌倉時代の仏師(3) 肥後定慶
第15回	復興造営(4) 蓮華王院本堂(三十三間堂)
第16回	筆記試験

到達目標

平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏師の歴史、仏像の造形上の特徴などの基本的な仏像史の流れを身につける。それと同時に、史料、絵画、発掘調査の成果を活用することで、現在伝えられていない仏像などを含めた当時の寺院、仏師の仕事などの全体像を知る手法を理解する。

履修上の注意

授業中、スクリーンに映される作品をよく見る習慣をつけ、作品の特徴を理解するように努めること。なるべく多くの博物館・美術館、寺院に足を運び、作品を鑑賞する機会を持つこと。

予習復習

授業内で紹介した参考文献等について、積極的に調べること。

評価方法

期末試験(70%)とコメントペーパー(30%)によって評価する(欠席は減点とする)。

テキスト

教科書は使用しない。
参考文献を授業内で紹介する。